

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	難治性新皮質てんかんでのてんかん焦点における、Arterial spin labeling 法での血流変化と発作頻度・てんかん性投射頻度との関連の検討
研究責任者	小児神経科 馬場信平
研究実施体制	聖隷浜松病院小児神経科・てんかん科・神経内科・放射線科 鳥取大学医学部脳神経小児科
研究期間	2020年7月 ~ 2025年 12月
対象者	2016年4月から2020年3月までの間に、当院で術前検査としてMRIと長時間脳波が行われ、当院てんかんセンターで根治的てんかん外科手術を受けた患者さんを対象とします。
研究の意義・目的	MRIを利用して脳血流を評価する撮影方法を、Arterial spin labeling 法といいます(以下、ASL と略します)。てんかんの原因となる脳内の領域は、ASL で血流変化を示すことが知られていますが、その血流が増加するのか・減少するのか、はっきり分かっていません。本研究は ASL の評価の精度改善に寄与する可能性があり、患者さんの治療方針の決定に有用であると考えられます。
研究の方法	対象となった患者さんのこれまでのカルテ情報、MRI、脳波を含めた検査所見を参照します。手術で切除された領域における脳血流の増加/減少と、てんかん発作の頻度、てんかんに関連する脳波異常の頻度との関連を検証します。カルテ情報や、MRI を含めた検査結果は、データ抽出の段階で個人を特定することが可能となる情報が削除されます。過去の診療記録を検証する研究ですので、該当する患者さんの現在の治療方針に影響を与えるものではありません。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 小児神経科 馬場 信平

